

# 愛すべきテキサス音楽

## <その1>

素晴らしい音楽を作り上げています。その成果は複数に渡るグラミー賞受賞、特に2015年のグラミー賞では特別功労賞を受賞しています。他にも、最近でも先日Houstonで公演を行っていたLos Lonely Boys等、同じジャンルといってもかなり幅の広い音楽がテキスマックス音楽として楽しまれています。

### テキサス・ブルース

盲目のBlind Lemon JeffersonやTexas Alexanderといったテキサス・ブルースの原点と言える音楽家に次いで、ブルースの伝説となるRobert Johnson(生まれはミシシッピ州ですが)が歴史的な二回の録音をテキサス州で行っています。1936年にSan Antonioで初めての録音を実施(録音を行ったのは現在のSheraton Gunter Hotelの一室であり、ここで録音が行われたという事で、今でもホテルのロビーに記念の銘板が誇らしげに設置されています)、続いて翌1937年にはDallasのスタジオで二回目の録音を実施、合計29曲を残しましたが、翌年(確証はないものの)浮気相手のご主人に毒殺されてしまいます。29曲の素晴らしい演奏を録音するにあたっては59テイクしか取っていない(現存するのは42テイク)というのは、演奏の複雑さ・完璧さを含めて「十字路で悪魔に魂を売り渡して、その技術を獲得した」とされるクロスロード伝説に信憑性を与えています。この伝説を生んだクロスロードはミシシッピ州のClarksdaleであったとされています。

その後の名演奏者としては、T-Bone Walkerが欠かせません。ブルースにエレクトリック・ギターを持ち込んだ、モダン・ブルース・ギターの父といえます。彼の生まれはテキサス州のLindenになります。音楽家としてのキャリアはDallasで始まります。名前のT-Boneはお肉のT-BoneではなくミドルネームのThibeauxがなまったものとされています。

1960年代になるとブルース3大キングの一人と称されるFreddie Kingが現れます。ギブソンES-345から織りなすサウンドには多くのギタリストが魅せられ、Eric Claptonを始めとした数多くのフォロワーが現れます。他にも初期ブルース音楽の達人ともいえる素晴らしい音楽家たちがテキサスからは輩出されています。例えば、Houston出身のJohnny “Guitar” Watsonは、骨太なブルースからファンクまで、多様な音楽性でアメリカのみならず日本でも大変人気を博しましたが、残念ながら1996年の日本公演中に心臓発作で亡くなられてしまいました。

Centerville出身のLightnin’ Hopkinsはアコースティックギターを用いたブルースの名手で、1960年に録音したMojo Handは超名盤として筆者を含めた多くの人に愛されてきています。Leona出身のAlbert Collinsもテキサス・ブルースの達人として数多くの日本公演歴も含めて世界中で愛されてきました。テレキャスターの12フレットにカポタストという常人では考えられないセッティングで切れ味のいいブルースの演奏を上げてきました。

Beaumont出身のJohnny Winterも弟のEdgarと共に1960年代からの音楽シーンに多大なる影響を与えてきました。アルビノであったJohnnyは1969年に当時の価値で数十万ドルのレコーディング契約を行ったことから、安直な「百万ドルのギタリスト」の触れ込みで衝撃的なデビューを飾り、その後も原点に戻ったブルースで音楽ファンを魅了してきましたが、2014年に残念ながら亡くなられています。

1980年代になるとMTVがポップカルチャーを発信する中、Stevie Ray Vaughanが現れ、ブルース・ロックを復権させます。Dallas生まれのStevieは音楽家を目指してAustinに向かい、痛快でワイルドなギターと歌で一度聴いたら頭から離れない新鮮なブルースを作りあげ、日本を含む世界中にテキサス・ブルースのファンを増やしました。彼の兄であるJimmy VaughanもThe Fabulous Thunderbirdsを結成し、ブルースに根差したソリッドなロックで人気を博します。Stevieは残念ながら不慮のヘリコプター事故で1990年に命を落としますが、兄弟で録音していたFamily Styleというタイトルのレコードを1990年に発表し、ぴったりと息のあったブルースを聴かせてくれます。没後となる1994年にはAustin市がコロラド川の川辺に銅像を設置し、彼の音楽への貢献を讃えています。Austinに行かれる際は是非記念写真をお勧めします!

最後に忘れてはいけないのはHoustonに作られたPeacockレーベルです。多様な音楽を取り込んだPeacockではLouisiana生まれではありますがClarence “Gatemouth” Brownが南部音楽を取り込んだ素晴らしい演奏を行っています。他にも尽きませんが、次のカントリー音楽に進みます。

<編集部:以下、次号に続きます。>

(北米三菱商事 相澤稔)

# 愛すべきテキサス音楽

## <その1>

今回はちょっとカジュアルな話題を書かせていただきます。「愛すべきテキサス音楽」と題し、テキサスの素敵な音楽に触れてみたいと思います。筆者は2000年から2007年の7年、今回は2020年から3年とHouston駐在期間は通算で10年目となる自称テキサンであり、学生時代には米国南部音楽の演者であったこともあり、(テキサスの音楽の話をしてなかなか盛り上がることなく終わってしまうことが多い中でどれだけの読者の方に興味を持ってもらえるかは全く自信ありませんが)テキサスの素晴らしい音楽を紹介させていただきます。筆者の年齢もあり若干古い音楽に偏っている点をご容赦ください。

テキサスは、ブルース、ジャズ、ロック、カントリー、テハノなど、さまざまなジャンルの音楽が発展してきた伝統豊かな州であり、また、多くの才能あるミュージシャンを輩出し、独自の音楽文化を築き上げ、世界の音楽シーンに多大なる影響を与えてきました。その根底にあるのは異なる文化の融合で、アイルランド、ポーランド、チェコ、ドイツといった欧州文化、アフリカ文化、そしてメキシコを中心としたラテン文化/カリブ海文化がテキサスの音楽に根付いており、多様な音楽性を含んだ素晴らしい音楽となっています。個人的にはアルコール消費量も影響があるのではないかと思います調べてみましたが、テキサス州の人口当たりのアルコール消費量は、断トツの一番となるニューハンプシャー州の僅かに62%と大きく劣後しており(全体で13位)、仮説は当たりませんでした。ついでも書きますと、ビール消費量は12位の割にワイン消費量は30位という事で、テキサスはやはりビールが一番であることを数字が物語っています。

テキサス音楽の歴史をたどると、古くは宗教音楽から入っていますが、最初期のポピュラー音楽としては19世紀後半のScott Joplin(実際にヒットを連発したのは、彼が生まれたテキサス州の一大ガス生産地であるヘインズビル堆積盆地の北にあるLindenではなく、ニューヨークに移動してからですが)によるラグタイムがあげられます。彼の最も有名な作品“The Entertainer”は1902年の作品で、1973年の映画“The Sting”を彩る名曲として認識されています。

その後スウィング・ジャズがジャンプ・ブルースを生み、カントリー&ウェスタンやテキサス・ブルースなど多様な音楽形態を経て、現在の音楽に結びついています。

クラシック音楽においても、2009年に盲目の辻井伸行氏が優勝したことで一躍日本でも知られるようになったVan Cliburn国際ピアノコンテストは、1962年にFort Worthで初開催されています。第一回のコンテストでは中村紘子さんが着物姿で参加、ファイナルまで進みながらも体調不良で残念ながら途中棄権されています。Cliburnも石油業界に従事する父親のもと、先述のヘインズビル堆積盆地の中心ともなるShreveportで生まれ、その後テキサス州のKilgoreでピアニストとしての頭角を現しています。KilgoreといえばTylerの東に位置していますが、TylerといえばLA, Memphis & Tyler, Texasという名盤をDale Hawkinsが録音しています。Dale Hawkinsはお隣ルイジアナの出身で、Shreveportで初期のキャリアを築きながら 初期ロックの名曲“Suzy Q”をヒットさせています。

以下音楽のジャンル別に追いかけてみます。

### テキスマックス音楽

メキシコとの国境付近では自然な形でテキサスの音楽とメキシコの音楽が混じりあっていますが、初期段階(19世紀後半)においてはヨーロッパ、とくにドイツ・東欧からの移住者が持ち込んできたポルカ等の音楽がメキシコのマリアッチ等と混ざって出来上がったものが、テキスマックス、もしくはテハノ音楽として発達しています。初期段階の立役者としてはFlaco Jimenezがあげられます。Flaco JimenezはSan Antonioの生まれでアコーディオンを弾きながら多様な音楽を奏でてきており、Bob Dylan, Dr. Johnといったジャンルの違う音楽との共演でも知られ、Doug Sahmと組んだTexas Tornadosでも